

新規選定① 起伏ある山麓地形に形成された金沢城下の寺町

かなざわし うたつさんろく **金沢市卯辰山麓伝統的建造物群保存地区**

所在地 金沢市 うぐいすまち 鶯町、こらいまち 子来町、ひがしやま 東山1丁目、ひがしやま 東山2丁目及びやま 山の上町うえまちの各一部

面積 約22.1ヘクタール

金沢市は石川県中部に位置し、市街地はこだつのだい小立野台の丘陵先端に築かれた城を中心に広がる。卯辰山麓は金沢城下に形成された3つの寺町のうちの1つで、金沢城の北東に位置し、近世を通じて金沢城下の寺町として機能した。

卯辰山麓の寺町には、17世紀中期に至るまで段階的に寺院が配されたが、寺院は宗派ごとにまとまって配された。延宝期（1673～1681）までには、寺町の町割と起伏ある山麓地形が相まって、独特な景観を形成していたとみられる。文政3年（1820）には、南西の一画に茶屋様式ちややようしきの町家が軒を連ねた、ひがしの茶屋町ちややまちが成立した。

寺町の街区は、北国街道沿いほっこくかいどうや浅野川大橋あさのがわの北東側に広がる平地部では整形で、山麓部では地形に制約され不規則な形態を呈したが、基本的には、北国街道から東側の各寺院へ向かって延びる参道と、それらを結ぶ数条の南北街路が町割を構成した。

北国街道から寺院へ向かう参道を基本とした独特な寺町の町割は現在も残り、寺院境内に残る本堂は、切妻造平入きりづまづくりひらいりや妻入つまいりの特徴的な外観を持つ本堂が多く、江戸時代のものが密度高く残る。屋根は、当初の石置板葺屋根いしおきいたぶきの緩勾配かんこうばいを維持するものもある。

保存地区は、東西約690メートル、南北約840メートル、面積約22.1ヘクタールの範囲で、浅野川の北側、北国街道の東側に位置する卯辰山麓の寺町のうち、平成13年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された、東山ひがしやまひがし伝統的建造物群保存地区の範囲を除いた部分である。保存地区内には、37寺2社が立地し、寺院周辺の町家とともにまとまりある町並みを形成している。

金沢市卯辰山麓伝統的建造物群保存地区は、起伏ある山麓の地形にあって、北国街道から寺院へ向かって延びる参道を基本とした独特な寺町の町割に、江戸時代の切妻造平入や妻入の特徴ある寺院本堂が密度高く残り、寺院周辺の近世から近代にかけての町家とともに、卯辰山麓一帯に形成された寺町の歴史的風致を今日に良く伝え、我が国にとって価値が高い。



起伏ある山麓に広がる寺町



卯辰山麓の寺院山門



金沢市卯辰山麓伝統的建造物群保存地区の範囲

新規選定② 加賀地方の農家の発展を伝える赤瓦と煙出しの民家群

加賀市加賀東谷伝統的建造物群保存地区

所在地 加賀市山中温泉^{あらたにまち}荒谷町イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ヲ、山中温泉^{いまだちまち}今立町
イ、ロ、ハ、ニ、乙、丙、丁、山中温泉^{おおづまち}大土町イ、ロ及び山中温泉^{すぎのみずまち}杉水町イ、
ロ、ハ、ホの全域並びに山中温泉荒谷町山林ロ、山中温泉今立町ホ、ヘ、ト、
チ、リ、ヌ、ル、甲、山林ニ、山林リ、山林ル、山中温泉大土町ハ、ニ、山林イ
及び山中温泉杉水町ニ、ヘ、ト、山林イ、山林ロ、山林ニの各一部

面積 約151.8ヘクタール

加賀市は石川県南西端に位置し、市内には、南端部の大日山^{だい にちさん}に発する動橋川^{いぶり はし}と大聖寺川^{だいしょうじ}が、市内の東西を北部海岸に向かって流れる。加賀市南部の山間部は、近世には大聖寺藩^{おおくやまがた}の奥山方に属し、動橋川沿いの東谷と、大聖寺川沿いの西谷を中心に21村が形成されていた。うち8村には炭役が課されて大聖寺藩の御用炭全てを生産し、近代から昭和前期にかけては山間部の大半の集落が炭焼きを主産業とした。

昭和30年代以降、西谷におけるダム建設や、災害、離村などにより失われた集落もあるが、藩政時代より炭焼きを行い、東谷沿いに搬送した荒谷^{あらたに}、今立^{いまだち}、大土^{おおづち}、杉水^{すぎのみず}の4集落では、豊かな山林や、集落間のつながりを示す河川や旧道等と共に、歴史的環境が良好に残されてきた。

保存地区は、東西約5,280メートル、南北約4,950メートル、面積約151.8ヘクタールの範囲で、荒谷、今立、大土、杉水の4集落及びこれらを結ぶ河川、旧道から成る。各集落とも、地形に合わせて敷かれた道に沿って宅地を開き、その周辺の比較的平坦な土地を耕地とし、周辺の山林を背景に、狭隘な谷筋集落に独特な集落景観を見せる。

主屋は、加賀地方に広く見られる前広間型の間取りを持つ2階建ての切妻造^{きりづまづくり}妻入^{つまいり}で、4面^{けむりだ}に下屋を廻らし、大屋根には煙出し^{さんがわら}を設け、屋根と庇を赤褐色の棧瓦で葺く。統一的な外観に加え、部屋境に太い通し柱を立てる強固な軸組も、特徴の一つを成す。

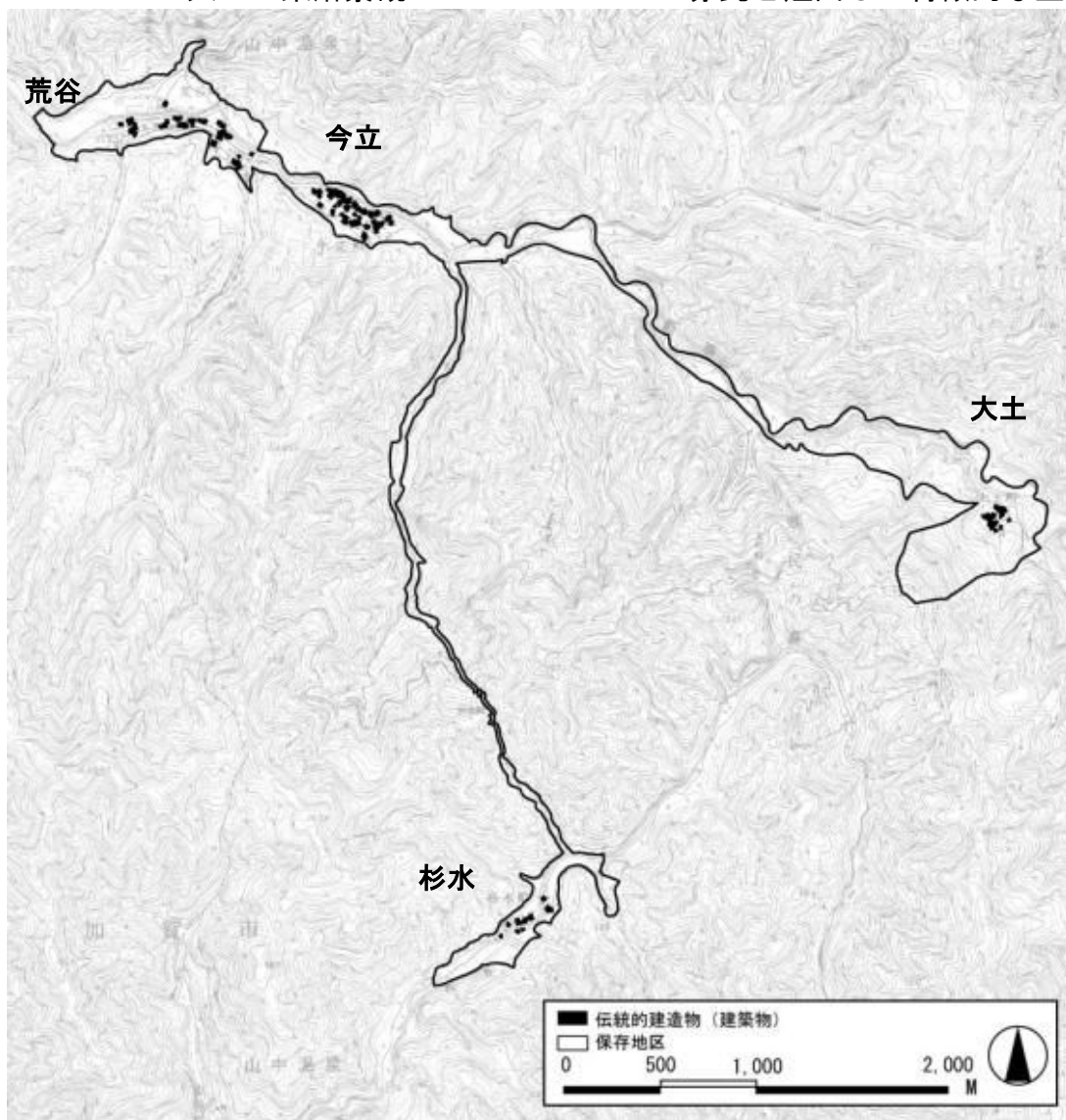
加賀市加賀東谷伝統的建造物群保存地区は、近世から昭和前期にかけて炭焼きを主産業とした山間部の4集落からなり、加賀地方の農家の特徴を発展させた近代以降の伝統的建造物群が、石積み、石造物、樹木、旧道、水路、河川等の工作物や自然物と一体となって独特な歴史的風致を形成しており、我が国にとって価値が高い。



大土の集落景観



赤瓦と煙出しが特徴的な主屋



加賀市加賀東谷伝統的建造物群保存地区の範囲